中　学　部

１　目　標

（１）　自分の役割に気付き、目標の達成に向けて自ら学ぶ態度を育てる。　＜自ら学ぶ＞
（２）　興味ある活動を増やし、表現する力を育てる。　＜豊かに表す＞
（３）　基本的な生活習慣を身に付け、健康で楽しい生活を営む力を育てる。　＜健やかに生きる＞
（４）　生徒同士の関わりを深め、相手を思いやる豊かな心を育む。　＜手をつなぐ＞

２　重点事項

（１）　集団の学習や教科学習が「生徒主体の授業」となるように、類型ミーティングや研究会を活用して授業改善を行い、次年度の教育課程編成につなげる。

①経験や体験を通して、他者の考えや新しい知識に触れ、自己の考えを広げる機会を設定する。
②生徒自身が課題意識、めあて、疑問をもち、考えたり選択したりする場面を設定し、自己評価、他者評価から新たな課題へとつなげ、確かな学びとなるための授業サイクルを確実に実践する。
③ICT 機器等を活用するなどして、自立活動の目標を意識した支援を十分に検討し、学習環境を整える。
④1、2 組の学習内容が生活に活きる学びとなるように、類型ミーティングの機会を活用し、単元ごとにチームで授業作りを進める。

（２）　「目指す姿」を反映させ、自分から進んで人や物と関わり、自分の気持ちや考えを様々な相手に伝える態度を育てる。

①　自分から進んで挨拶、返事、感謝の言葉を伝えることを習慣化する。
②　時間を守ることや社会のルールやマナーを学ぶ機会を類型、学級ごとに設定し、実施する。
③　関わる力や表現する力を育てるために、交流活動や外部講師の活用を積極的に取り入れたり、体験的活動を計画的に実施したりする。
④　校内外の人や資源を有効に活用して、自分の心や体についての学習機会を生徒の実態に合わせて設定し、よりよく自分と向き合うと共に、周囲の人を大切にする気持ちを育てる。

（３）　進路学習の機会を教育課程上に位置付け、生徒の実態や「目指す姿」と関連付けた学習活動の実践と、自分の将来について考える機会を設定する。

①　１組は、職業学習週間や総合的な学習の時間において、体験的な活動を通して大人、社会人、働くことや将来の生活等について考える学習を実践する。
②　２、４組は、表現したり伝えたりする方法の幅を広げるために、将来の生活に必要な力（目指す姿）をチームで検討し、様々な学習の中で関連させて実践する。
③　３組は、卒業後の進路を自己決定し、目標達成に向けて努力できるように、様々な人の考えに触れながら、自分と向き合い、将来を考える機会を設定する。

＜訪問教育（在宅、センター、あきた病院訪問）＞

〇訪問教育では、生徒の興味・関心を広げ、人と関わる力を高めることをねらい、同行訪問やスクーリング、センターでの交流、タブレット型情報端末を活用したビデオレターや双方向通信等を通して、学校や学年の友達や教師との交流を実施する。